

# 神崎町第4次総合計画

— みんなで創る こうざきプラン —

## 基本構想

平成23年3月



# 第1部 序論

# 序論





# はじめに

## 1. 計画策定の背景と目的

神崎町では、平成13年3月に、神崎町第3次総合計画（計画期間：平成13年度～平成22年度）を策定し、町の将来像「自然と人とふれあいのまち 神崎」の実現を目指して、これまで各種施策を計画的に推進してきました。特に、農業基盤の整備や先進的な無農薬栽培への取り組み、利根川舟運の復活やハイウェイオアシス構想実現への取り組み、学童保育所の整備など子育て支援の充実や学校教育、文化・スポーツ環境の充実、さらには酒蔵まつりや発酵の里づくりなど新しいまちづくりへの取り組みなど、着実にその成果を上げてきました。

しかし、一方で、地方分権・地域主権改革<sup>※1</sup>に向けた本格的な制度改革の進展をはじめ、地球規模での環境悪化の深刻化や安全・安心に対する新たな不安意識の高まり、情報化・国際化の一層の進展、さらには「広域合併」の協議が調わなかったことなど、本町を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきています。

こうした内外の動向に的確に対応し、次代に誇りを持ってつないでいく自立した神崎町を町民とともに築いていくために、このたび第3次総合計画の計画期間の満了を機に、新たなまちづくり指針を確立する目的をもって、「神崎町第4次総合計画」を策定することとしました。

本計画がすべての町民に幅広く親しまれ、多くの町民の参画と協働のもと、誇り得るふるさと・神崎町の創造に向けた取り組みが進められることを願い、本計画の愛称を、「みんなで創る こうざきプラン」と定めます。

※1 地方分権改革は、国主導型行政から地域主導型行政への転換に向けた国と地方との関係や役割分担の改革。地域主権改革は、住民に身近な行政は地方自治体が自主的・総合的に広く担うようにし、地域住民の自らの判断と責任で地域の諸課題に取り組むことができるようにするための改革。



## 2. 計画の性格と役割

「総合計画」は、まちづくりのすべての分野を対象とした総合的な計画として最も上位に位置づけられるものであり、総合的かつ計画的な自治体経営・地域経営を進めていく上での基本的な指針となるものです。

本計画は、このような位置づけを踏まえ、本町のまちづくりにあたって、次のような役割を持ちます。

### ■役割1 住民参画のまちづくりを進めるための共通目標

今後のまちづくりの方向性と必要な施策をわかりやすく示し、町民と行政が協働してまちづくりに取り組むための共通目標となるものです。

### ■役割2 自治体経営・地域経営<sup>※2</sup>を進めるための基本的な指針

地方分権・地域主権時代にふさわしい自治体経営・地域経営の確立に向けて、様々な施策や事業を総合的かつ計画的に推進するための基本的な指針となるものです。

### ■役割3 広域行政に対する連携の基礎

国や県、周辺自治体等の広域的な行政に対して、本町のまちづくりの方向を示すとともに、計画実現に向けて必要な施策や事業を調整・反映させていく連携の基礎となるものです。

※2 地方分権・地域主権時代にあっては、国や県からの指導や基準に基づく「自治体運営・地域運営」ではなく、自ら地域ビジョンや達成目標を掲げ、戦略的な「自治体経営・地域経営」へと転換し、官民協働で競争力のある経営体に生まれ変わらなければならないとする考え方。

### 3. 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」の3層で構成されています。それぞれの内容構成と期間は、以下のとおりです。

#### ■ 基本構想

基本構想は、本町の目指すべき将来像とそれを実現するための基本方針や施策の大綱を示すものです。

計画期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間とします。

#### ■ 基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、その実現を図るために必要な基本的施策、目標指標、協働の指針等を体系的に示すものです。

計画期間は、前期5年間、後期5年間とし、このうち前期基本計画は平成23年度を初年度に、平成27年度を目標年度とします。

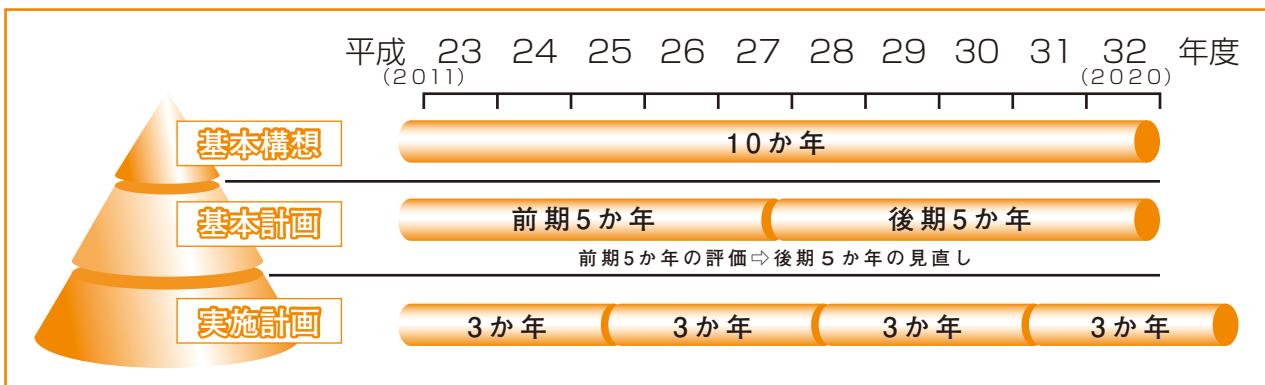
また、基本計画には施策ごとに成果目標（ベンチマーク）を定め、目標指標の定期的な点検を行って計画の達成度を確認する行政評価の仕組みの確立に努めるとともに、常に時代の流れや住民の意向、施策の進捗状況度合等に応じてマネジメントできる仕組みの確立を図ります。

#### ■ 実施計画

実施計画は、基本計画に示した施策を、具体的に実施する事業内容や実施時期等を明らかにすることにより、事業の計画的な進行を図るものです。

計画期間を3年間として3年ごとに策定することとし、本計画の進行管理の役割も担います。但し、基本計画・基本構想を見直した際には必要に応じて実施計画も見直すこととします。

#### ■ 神崎町第4次総合計画の構成と期間





## 第2章

# 神崎町の特性と課題

## 1. 明日に生かす特性・資源

新たなまちづくりの方向性を定めるにあたっては、まちの特性・資源を最大限に生かし、さらに磨き上げていく視点に立ち、本町の特性をあらためてとらえ直す必要があります。本町の明日に生かすべき代表的な特性・地域資源は、次のとおりです。

## 特性1

### 発酵<sup>※3</sup>の里 こうざき

本町は伝統的に酒屋、醤油屋、味噌屋など発酵食品づくりの店がまちの発展を担ってきましたが、食の洋風化に伴い、これら伝統産業が停滞傾向になっていました。しかし、近年の全国的かつ世界的な健康志向・自然志向の高まりとともに、これら伝統食品が見直されています。このような大きな動向を踏まえ、本町では発酵のまちづくりというテーマを掲げ、伝統的な食品だけでなく付加価値の高い新しい発酵食品づくりや大きなイベント開催などを実施し、県内外に広く情報発信しています。今後は農工商連携の視点に立って食品産業と農業・商業・観光との連携を強め、まちの活性化に一層寄与していくよう努めていく必要があります。

## 特性2

### 生涯学習・健康活動拠点のまち こうざき

本町は水と緑の豊かな自然環境を背景に、こうざき自然遊歩道や首都圏自然歩道、天の川公園などが整備されており、これらを活用したウォーキングやハイキングコースが多様に設置され、町内外の多くの人々の健康づくり活動に活用されています。また町内には、神崎ふれあいプラザやわくわく西の城をはじめ多くの文化・スポーツ活動施設も整備されているほか、県の生涯大学校も立地するなど、本町は生涯学習・健康活動拠点のまちとなっています。

※3 発酵とは微生物を利用して食品を製造することであり、本町の特産品となっている日本酒や醤油、みそ、納豆などの伝統的な食品のほか、ヨーグルト、チーズ、パン、ワイン、キムチなどの多様な食品があり、いずれも健康食品として需要が高まっている。

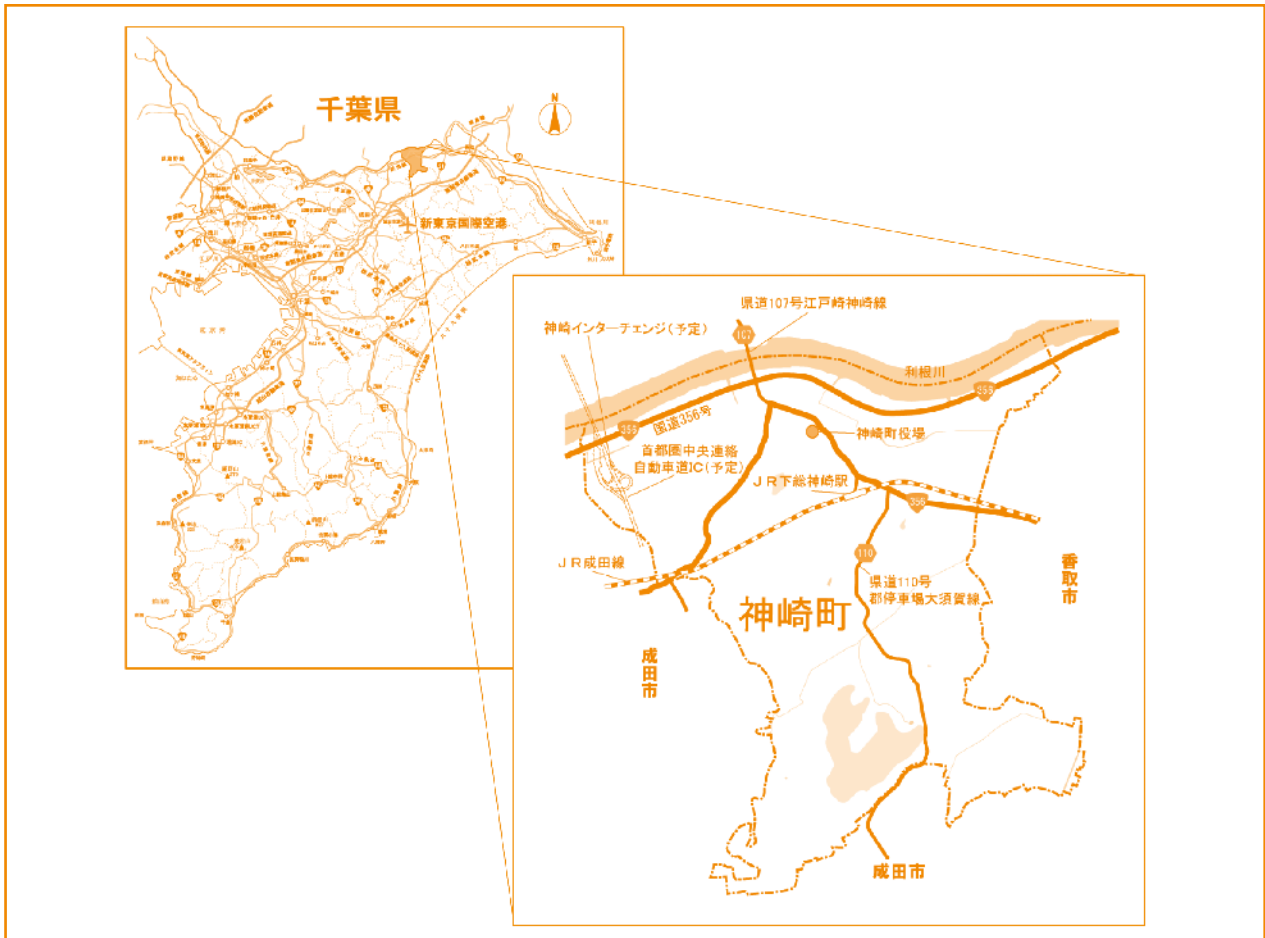
### 特性3

## 空・陸・川の多様な広域交通条件に恵まれたまち こうざき

本町は成田空港に近接し、9市町で構成する成田国際空港都市づくり推進会議のメンバーであり、連携して企業誘致や観光農業などに取り組んでいます。加えて、町内には航空・交通守護の神として知られる神崎神社が位置し、多くの関係者の信仰を集めているなど、本町は昔から航空には縁が深いまちです。

また、利根川水運の河港のまちとして発展してきた本町ですが、現在は、利根川流域18市町村で構成する利根川舟運・地域づくり協議会のメンバーとして流域のまちと連携してクルージングや地域振興に向けた取り組みを行っています。さらに、首都圏の大動脈となる首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道と略称する）のインターチェンジの設置が町内で進められています。このように本町は空・陸・川の多様な広域アクセス条件に恵まれたまちです。

### ■ 神崎町の位置と概要図







## 特性4

## 食の安全・先進農業のまち こうざき

本町の基幹を担う農業については、基盤整備もほぼ完了し、営農組合・組織もしっかり機能しており、県内でも有数の水田農業の先進地のまちとなっています。また、町内には、農薬や化学肥料を使わず不耕起栽培に取り組んでいる団体があり、全国各地から研修生が集っています。

今後は、発酵のまちづくり等と連動し、安全安心の無農薬農業のまちとしての情報発信を強め、成田空港に近いという立地条件も生かし、周辺市町と連携して外国への輸出や外国人観光客の入込増加も視野においた付加価値の高い農業振興に努めていくことに加え、首都圏各地から新規就農希望者を広く受け入れ流入人口の増加等を目指していくことも可能になると考えられます。

## 特性5

## 子どもにやさしい子育て応援・教育のまち こうざき

本町では、学童保育施設を整備し、学童保育の充実や子育て相談体制の充実に努めているほか、中学生までの医療費の助成を実施し、子育てへの経済的負担の軽減に努めています。また、学校教育の面でも、本町は伝統的に教育のまちとして教育熱心なまちとして知られています。保育所・小学校・中学校相互の交流により、基礎学力の定着と習熟度別指導による個に応じたきめ細かな授業を行うとともに、地域のボランティアの協力による、通学合宿やわくわくウィークエンドスクール等を実施するなど、地域に密着した教育を進めています。

子育て応援と教育の充実を一層進め、心豊かな子どもを育てるには神崎町が一番と評価されるまちづくりを進め、子育て世代の町内定住意識を高め、かつ町外からの流入人口の増加も目指していく必要があります。

## 2. 町民の願い

本計画の策定にあたっては、平成22年1月に20歳以上の町民2,000人を対象に住民意識調査を実施しました。有効回収数は785票、有効回収率は39.3%でした。

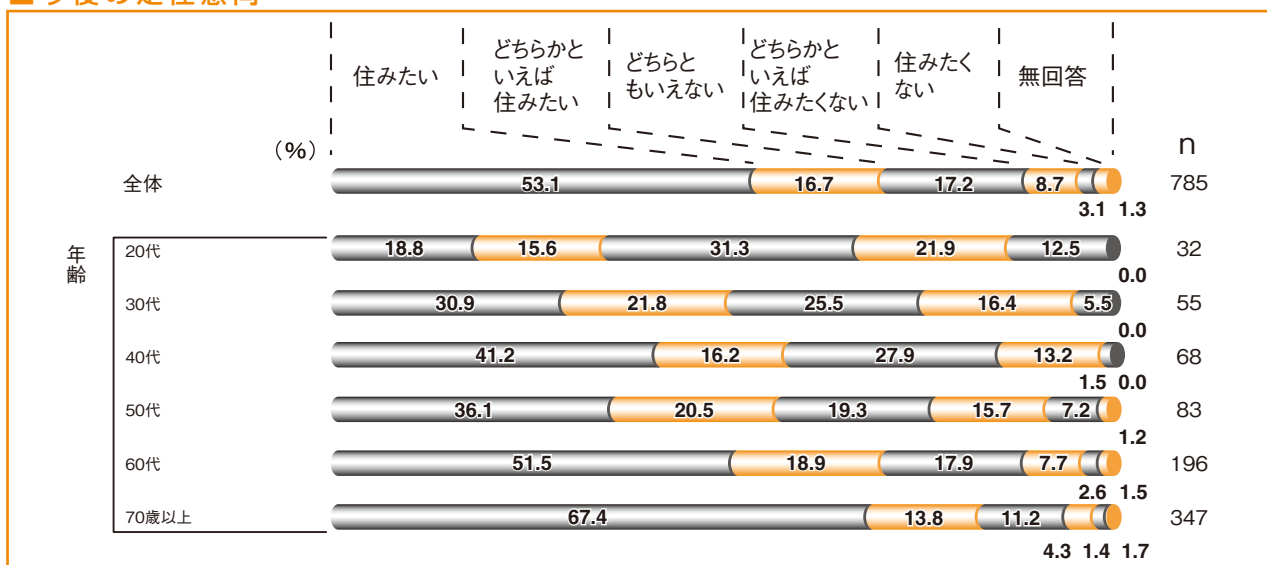
この結果からまちの現状評価や今後期待するまちづくりの方向など、新たなまちづくりに向けた住民ニーズをまとめると次のとおり把握されました。

### (1) 今後の定住意向

今後とも町内に“住みたい”と“どちらかといえば住みたい”とする定住意向の回答比率は合わせておよそ7割でした。全体的には町民の町内定住意向の高いことが確認されました。しかしこれを年代別にみると若年層になるほど定住意向が低くなり、特に20代では“住み続けたい”とする比率が全体平均のおよそ半分程度となっています。一方で20代では“どちらともいえない”とする回答比率が全体平均を大きく超えて3割強となっています。このことは町内定住を決めかねて、今後どこで定住したら良いのか迷っている若年層が多いことを示しています。

これらのことは、特に若年層を対象とした定住対策の重要性を強く示唆する結果といえます。

#### ■ 今後の定住意向



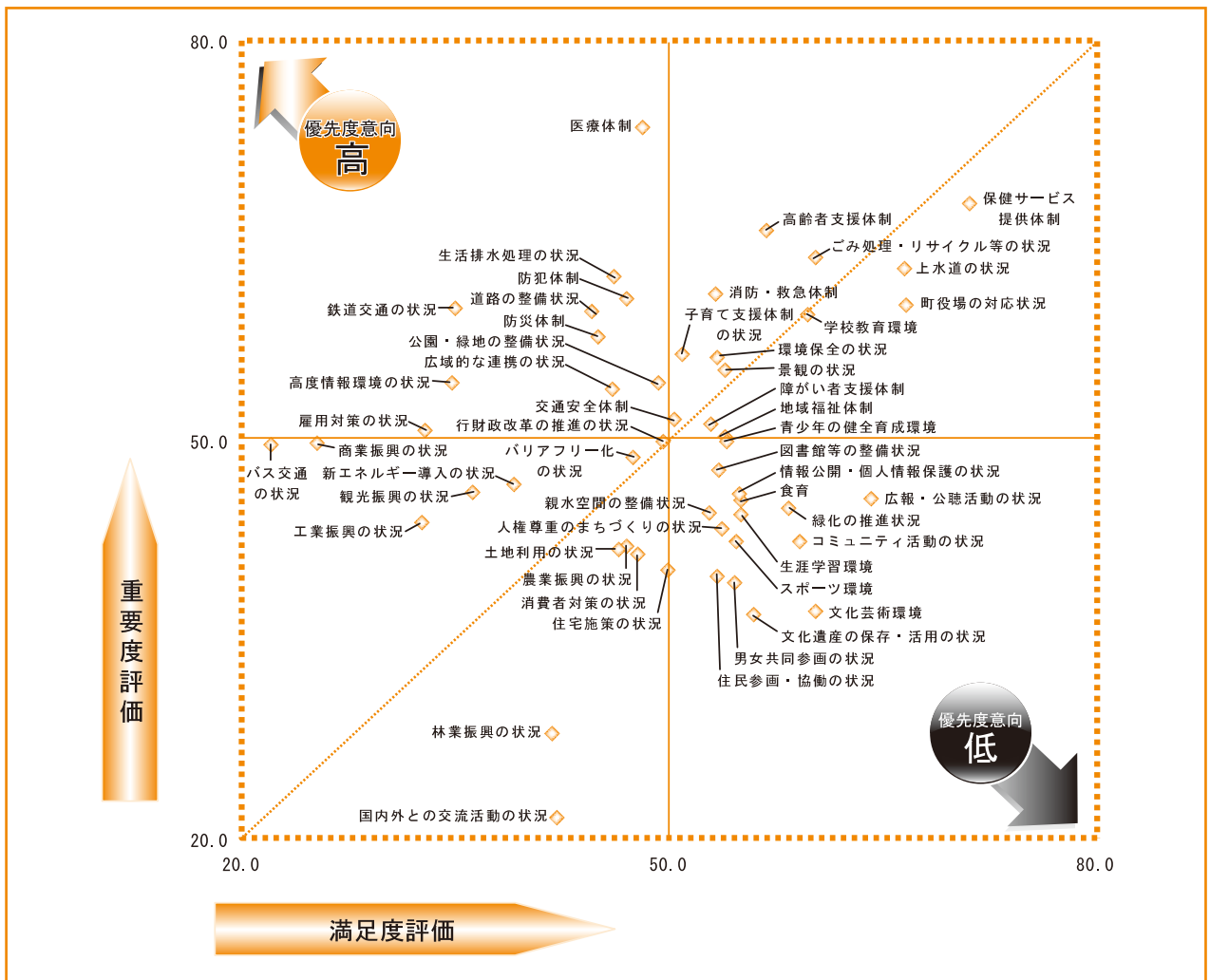


## (2) まちの現状に対する評価

本町の生活環境や行政サービス、公共施設など各分野51項目について現状における満足度と今後の重要度の2つの視点で町民の皆さんに評価していただきました。この結果を踏まえ満足度評価点と重要度評価点の相関分析を行い、各分野51項目ごと今後優先的に取り組んでいくべきと考えられている割合がどの程度かを示す優先度評価点を算出してみました。結果は下図のとおりです。

この結果をみると優先度評価は「鉄道交通の状況」が第1位となっており、次いで「バス交通の状況」、「医療体制」、「商業振興の状況」、「高度情報環境の状況」の順となることがわかりました。

■ まちの現状評価の散布図（満足度と重要度の相関分析による優先度評価）



注1) 満足度、重要度の評価点のばらつきを標準化するため偏差値化を行い、グラフを作成した。ここでは最小値を20.0、最大値を80.0に設定している。

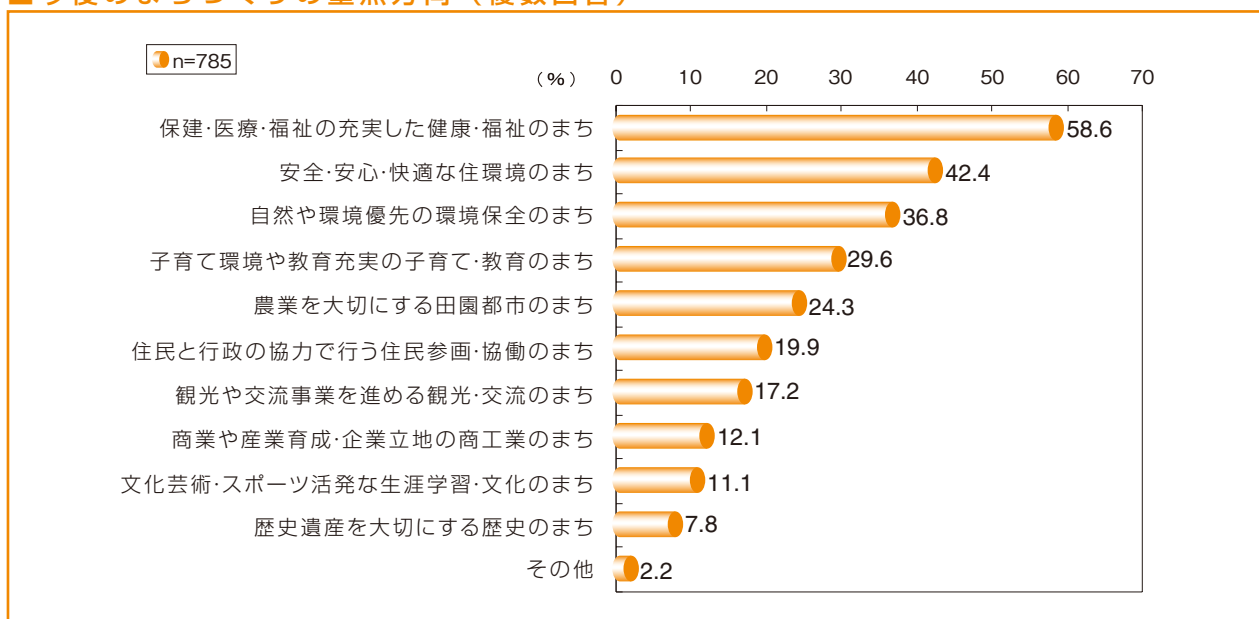
注2) このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高、重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなる。

### (3) 今後のまちづくりの重点方向の意向

今後のまちづくりの特色・重点方向については、「保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち」が第1位、第2位に「安全・安心・快適な住環境のまち」、第3位に「自然や環境優先の環境保全のまち」となっています。次いで「子育て環境や教育充実の子育て・教育のまち」、「農業を大切にする田園都市のまち」、「住民と行政の協力で行う住民参画・協働のまち」などと続いています。

前項の優先度意向分析での評価が高かった商工業や観光などの産業振興の方向は、ここでは下位になっていますが、これらの産業振興・雇用の場づくりなどは周辺市町に多くを依存し、本町としては、福祉や住環境の整備など生活者のまちづくりを優先すべきと考える町民の多いことがうかがえます。

#### ■今後のまちづくりの重点方向（複数回答）



さらに、今後のまちづくりの重点方向について年代別に上位3位までの回答結果を一覧にすると、右表のとおりとなります。このうち、第1位の回答項目が、30代以下の若年層では「子育て・教育のまち」、40代以降では「健康・福祉のまち」と大きく2分される結果となって年代別の二一ズの相違が明確となっています。中でも30代では「子育て・教育のまち」が70%強の圧倒的高率で第1位となっていることが特筆されます。



## ■今後のまちづくりの重点方向（年代別上位3位までの項目）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全 体		保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 58.6	安全・安心・快適な住環境のまち 42.4	自然や環境優先の環境保全のまち 36.8
年 齢	20代	子育て環境や教育充実の子育て・教育のまち 59.4	安全・安心・快適な住環境のまち 56.3	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 46.9
	30代	子育て環境や教育充実の子育て・教育のまち 76.4	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 54.5	安全・安心・快適な住環境のまち 40.0
	40代	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 55.9	安全・安心・快適な住環境のまち 52.9	子育て環境や教育充実の子育て・教育のまち 47.1
	50代	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 57.8	安全・安心・快適な住環境のまち 56.6	自然や環境優先の環境保全のまち 45.8
	60代	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 58.7	安全・安心・快適な住環境のまち 45.9	自然や環境優先の環境保全のまち 42.9
	70歳以上	保健・医療・福祉充実の健康・福祉のまち 60.8	自然や環境優先の環境保全のまち 34.6	安全・安心・快適な住環境のまち 34.3



## 3. 時代を読む

本町を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化し、様々な分野で大きな転換期を迎えています。新たなまちづくりにあたって踏まえるべき代表的な時代の潮流は、次のとおりです。

### 潮流 1

#### 実行段階を迎えた地方分権、求められる住民との協働に基づく自立したまちづくり

わが国では、国主導型行政から地域主導型行政への転換に向け、これまで様々な制度が改善され、地方分権は今まさに実行段階を迎えています。これに伴い、これからの自治体には、町民との協働を基本に、あらゆる面で自立したまちづくりを進めていくことが求められます。

本町においても、町民と行政が力を合わせた協働のまちづくり、さらには新しい公共空間の形成<sup>※4</sup>を進めながら、さらなる行財政改革を推進し、将来にわたって自立・持続可能な経営体制を整備していくことが求められます。

### 潮流 2

#### 急速に進む少子高齢化と人口減少の時代

わが国では、世界に例をみない速度で高齢化が進んでおり、特に、団塊の世代<sup>※5</sup>がすべて高齢期に入る平成27年頃には、高齢者人口がさらに急激に増加すると予想されています。また、少子化も深刻な問題となっており、これに伴い、わが国の総人口も平成17年度に明治以降はじめて減少に転じ、人口減少時代を迎えました。

本町でも、少子高齢化が進行しているほか、人口動向も近年では微減傾向が続いています。活力あるまちづくりのため、今後一層若年層の定着や人口減少に歯止めをかける対策を強化していくことが求められます。

※4 これまで行政に委ねられてきた公共を見直し、住民や民間が共に公共を担うこと。

※5 第二次大戦後のベビーブーム世代。



## 潮流3

## 急速に高まる安全・安心への意識

近年、国内外で大地震や集中豪雨等による大規模災害が多発しており、自然災害に対する安全性の確保への人々の意識が急速に高まっています。また、子どもや高齢者を狙った悪質な犯罪の発生や悪徳商法によるトラブルの急増、食品の不当表示問題の発生、さらには地域における医療体制や福祉の充実への関心やニーズの高まり等を背景に、安全で安心して暮らせる社会づくりが強く求められています。

本町においても、大規模災害に備えた防災体制の一層の強化を図ることはもとより、地域住民が相互に見守り、助け合うコミュニティづくり、さらには食の安全に配慮した農業や食品づくりに努めるなど、今後ともあらゆる分野で安全・安心の視点を重視したまちづくりを進めていくことが求められます。

## 潮流4

## 求められる環境の保全と創造

世界的に深刻な脅威となっている地球温暖化をはじめ、様々な環境問題の発生を背景に、地球規模で環境保全の重要性が叫ばれており、わが国においても、次世代へ継承できる環境先進国の形成に向けた具体的な取り組みが強く求められています。

本町においても、水と緑に包まれた優れた自然環境・景観の保全や排水処理対策の推進、一般家庭ごみのリサイクル化の推進などに取り組んでいますが、今後とも、低炭素社会づくりの視点に立って新エネルギーの導入やエコライフの普及など環境負荷の少ない持続可能な社会の形成に向けて一層積極的に取り組んでいくことが求められます。

## 潮流 5

### 厳しい状況が続く地方の産業・経済

地方における産業・経済は、世界的な経済変動やわが国産業の国際的競争力の低下などの影響に加え、少子高齢化や人口減少とも相まって、依然として厳しい状況が続いています。

農業における担い手の減少や高齢化の進行、農地や里山の荒廃等の問題が一層深刻化しているほか、商工業においても、商店数の減少や企業の撤退などの状況がみられ、これらに伴う雇用の場の不足や人口の流出等が大きな問題となっており、産業の再生が強く求められています。

本町においても、空・陸・川の広域交通条件に恵まれていることや発酵のまちとしての特性・資源等を一層生かしながら、農業・食品産業振興と産業間連携の促進、観光振興やコミュニティビジネス<sup>※6</sup>の創出など環境の変化に即応した産業振興施策を推進し、地域経済の再生・活性化を促していくことが求められます。

## 潮流 6

### 急進展する情報化、国際化

インターネットの普及等により、世界中の情報を手軽にかつ瞬時に入手し、自ら情報を発信することができる環境が実現したほか、これを利活用して行政サービスの提供等を行う電子自治体の構築が全国的に進められています。また、情報化や交通網の発達等により、人・物・情報の地球規模での交流が活発化し、あらゆる分野で国際化が一層進展しています。

こうした情報化や国際化は、自治体経営や地域活性化にとって大きな役割を果たすものであることから、本町においてもこれらの情勢の変化を的確に捉え、必要な取り組みを推進することが求められます。

※6 地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決し、その活動の利益を地域に還元するという事業のこと。地域住民の雇用の場づくりとしても期待されている。





## 4. 神崎町の発展課題

本町の生かすべき特性や住民ニーズの動向、踏まえるべき時代の潮流等に基づき、まち発展に向けた主要な課題を整理すると、次のとおりです。

### 発展課題 1

**発酵の里づくりや先進的農業に取り組んできた実績に加え、空・陸・川の多様に恵まれた広域交通条件等を生かした地域産業の振興**

地方の産業・経済が依然として厳しい状況にある中、まち経済の活性化と雇用の場の創出に向け、これまでに取り組んできた発酵の里づくりや先進的農業振興に加え、成田空港の拡充、利根川舟運の活用、圏央道インターチェンジの開設などの広域交通条件を生かした企業誘致や道の駅整備の推進、伝統的な地域食品産業の振興、さらには観光事業・イベント等と連携した新事業の開発や商業の振興等に努め、若者にも魅力的な活力ある産業づくりを進めていく必要があります。

### 発展課題 2

**明日を担う子どもたちの育成と他のまちに誇り得る健康スポーツ社会の形成に向けた教育・健康スポーツ環境づくりの推進**

まちの次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や「確かな学力の向上」を目指して、保育所・小学校・中学校相互の交流や学校・家庭・地域が連携した教育環境の充実等を進め、教育のまちとしての評価を一層高めていく必要があります。また、豊かな水と緑の中、多様に整備されている自然遊歩道等を活用した健康ウォーキングコースや多様に整備されているスポーツ施設などを活用して、他のまちに誇り得るまち独自の健康スポーツ環境づくりを進め、若者定住のまち、元気高齢者のまちを実現していく必要があります。

### 発展課題 3

## 急速に進む少子高齢化に対応した、高齢者福祉・子育て支援体制の一層の充実

「健康・福祉のまち」を強く求める住民ニーズ、急速に進む少子高齢化を踏まえ、互いを思いやる町民性やこれまでのボランティア活動・地域コミュニティ活動を充実させながら、地域福祉活動の充実や保健・医療・福祉体制の充実、さらには子育て支援体制の一層の充実を図り、すべての町民が健康で安心して暮らすことができる環境づくり、子どもを安心して生み育てることができる基盤づくりを進めていく必要があります。

### 発展課題 4

## 豊かな自然環境の保全と循環型まちづくりの推進

洋々と流れる利根川をはじめ天の川公園、自然遊歩道、田園景観などの美しい自然や景観は町民の誇りであり、今に生きる私たちには次代に引き継いでいく使命があります。これまでも合併処理浄化槽の設置促進や公害防止対策の推進、ごみの適正処理やリサイクルなどに積極的に取り組んできましたが、今後とも豊かな自然環境を保全していくとともに、太陽光・風力など循環型の再生可能な新エネルギーの導入や環境に配慮した生活スタイルの普及など循環型・低炭素社会型のまちづくりの形成・確立に一層努めていく必要があります。





## 発展課題 5

**便利で快適、安全・安心なまちづくりの一層の推進**

「安全・安心・快適な住環境のまち」を強く求める住民ニーズを踏まえ、主要施設や各地区間のアクセス向上を図る道路・交通網整備をはじめ、商業機能等の集積した中心市街地の再生やまちの顔となる駅周辺の整備などを一層進め、水と緑に包まれた快適生活拠点のまちとしての基盤づくりを進めていく必要があります。また、全町的に消防・防災体制や防犯体制の充実を図り、自然災害や子ども・高齢者を狙った悪質な犯罪などから町民を守る安全・安心なまちづくりに一層取り組んでいく必要があります。

## 発展課題 6

**自立・持続可能なまちづくりに向けた、行財政改革の推進と協働体制の確立**

厳しさを増す財政状況の中で、地方分権・地域主権時代に即した自立・持続可能な自治体を創造・経営していくため、行財政改革を今後とも積極的に推進するとともに、活発な住民活動・NPO活動等を一層促しながら、町民と行政との協働体制の確立を進め、町民と行政とが知恵と力を合わせた協働のまちづくり・地域づくりに積極的に取り組んでいく必要があります。また、成田市や香取市など周辺市町や利根川流域市町村と連携した広域行政の推進を今後とも進めていく必要があります。



